JR PROPO
www.jrpropo.co.jp

DMSS 2.4GHz専用 取扱説明書

TELEMETRY SENSOR SERIES

TLS1-ALT

DMSS DUAL MODULATION SPECTRUM SYSTEM

高度センサー（気圧換算方式）

このたびは、JR製品お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品を正しく安全にご使用いただくためにも、取扱説明書を必ずお読みください。

【TLロゴについて】
JRテレメトリーシステムに対応した製品にのみ記載します。

本製品はテレメトリー機能搭載製品専用です。

特　徴

・薄型、小型、軽量のMEMS気圧センサの採用により搭載が容易。
・小型ながら内蔵温度計および高精度気圧センサによる計測で温度補正された高度表示を実現しています。
・高輝度LEDを搭載し、高い視認性を持ちます。

構　成

● TLS1-ALT / センサ本体
● 取扱説明書（本書）

安全にご使用いただくために必ずお守りください。

使用者もしくは第三者への危害・財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように表示します。

お守りいただく内容を、次の表示で区分し説明します。

⚠	この表示で「注意事項」を説明します。
❗	この表示で「義務事項」を説明します。
⃠	この表示で「禁止事項」を説明します。

⚠ 定格電圧以外で使用すると、気圧センサの誤検出や破損の原因となります。

⚠ 飛行中は電池残量に十分注意してください。電池残量が少ないと誤測定する場合があります。

⚠ 本製品は気圧情報から現在の飛行高度を換算する機能をもったセンサモジュールです。
気象条件やその変化によってフライト中に表示動作が変化する場合があります。
例）
離陸→フライト→着陸後に値のずれが発生する場合
※気圧変動によって地上付近での気圧が変化にしたことが原因。

⃠ 分解、改造等をしないこと。

⃠ 水に濡らさないこと。結露の生じる環境では使用しないこと。

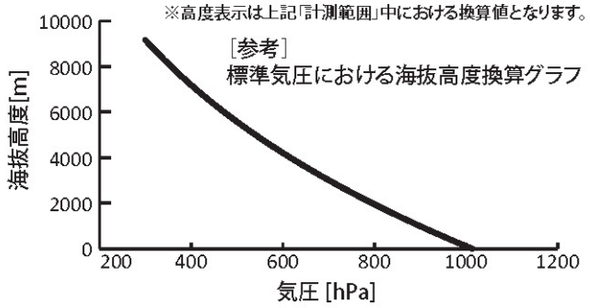
❗ 被覆チューブ、リード線やコネクタにキズがついた場合は使用しないこと。

仕　様

品　　番　TLS1-ALT
検出方式　気圧センサによる高度換算（目安値）
計測範囲　300hPa ～ 1,100hPa
計測精度　+/-20Pa（高度換算+/-2.0m）
定格電圧　4.8V
動作電圧　4.0V ～ 8.5V

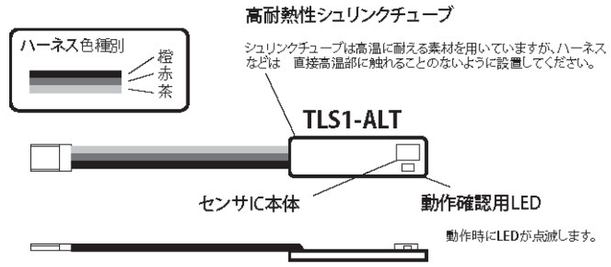
※高度表示は上記「計測範囲」中における換算値となります。

［参考］
標準気圧における海抜高度換算グラフ



構　成

■ TLS1-ALT本体



動作確認と注意

1．右図を参考にTLS1-ALTを接続してください。

2．受信機の電源をONにした後、TLS1-ALTのLEDが点滅していれば正常に動作しています。
送信機の画面表示を確認してください。

※初期化中はセンサを動かさないようにしてください。

**※受信機の電源ON直後は、TLS1-ALTがセンサを初期化しているため、すぐにLEDの点滅は開始されません。
センサが正常に初期化された後に点滅が開始されます。**

**※TLS1-ALTは電源ON直後の周囲の気圧をもとに高度に換算しています。
初期化中にTLS1-ALT本体を動かすことによって，0メートル地点の気圧が正しく測定できないとテレメトリ通信開始直後から大きく値が外れることになります。**

**※TLS1-ALTは気圧測定値をもとに目安値として高度に換算しているため、気象条件によっては高度表示がずれていく場合があります。
徐々に低気圧に変わる場合　→　高度表示は上昇
徐々に高気圧に変わる場合　→　高度表示は下降**

送信機でのアラーム機能について

送信機の［TELEMETRY］ファンクションにアラーム設定がある場合、設定値をセットすることで、その状態が継続した場合にアラーム音を鳴らせることができます。アラームの設定については各送信機の取扱説明書をご確認ください。

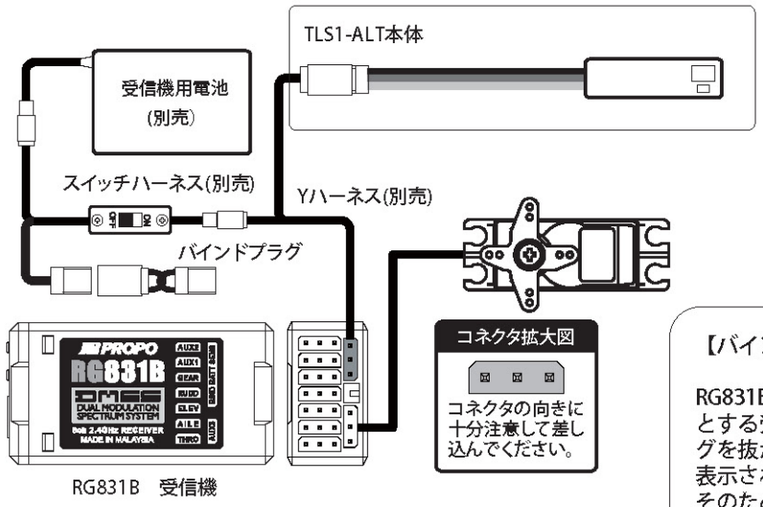
設　置　方　法

1．TLS1-ALT本体を受信機のSENS端子（あるいはDATA端子）に接続します。
→　Yハーネスもしくは TLS1-ADP（マルチアダプタ）を使用して接続してください。
→　空端子が十分にあり、センサを1種類のみ接続する場合はYハーネスが無くても接続できます。
その場合はセンサ本体を SENS端子に直接接続し、バッテリーからのハーネスを別の端子に接続してください。

2．TLS1-ALT本体を振動の少ない場所に貼り付けて固定します。
→　振動でずれることがないようにしっかりと固定してください。
→　貼り付けには両面テープなどで固定してください。

以上で設置は完了です。

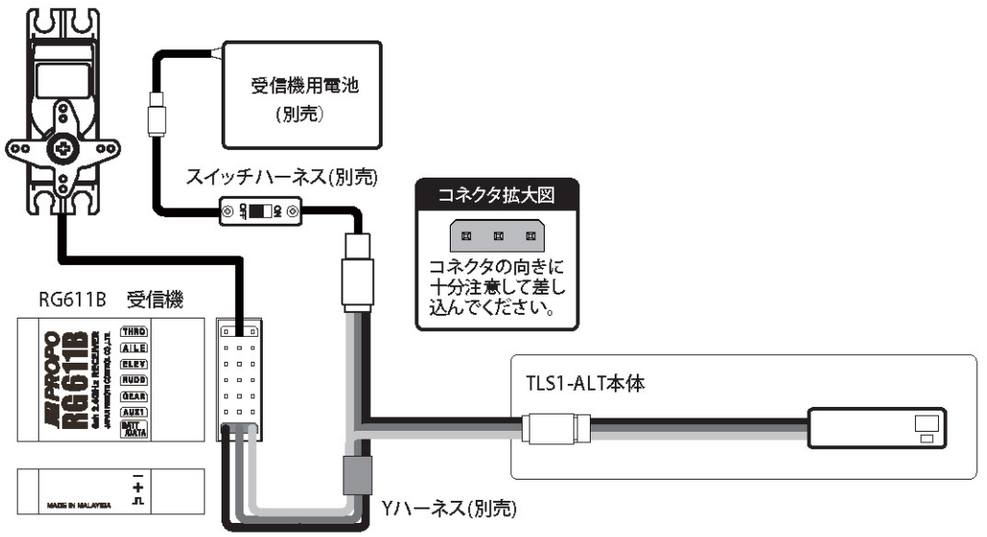
■ RG831Bの例　→　BIND/BATT/SENS 端子 に接続してください。



【バインドプラグは必ず抜いてご使用ください】

RG831Bなどのバインド作業にバインドプラグを必要とする受信機の場合、バインド終了後にバインドプラグを抜かなければテレメトリのデータは送信機上に表示されません。
そのため、バインドプラグは必ず抜いた状態でご使用ください。

■ RG611Bの例　→　BATT/DATA 端子 に接続してください。



■修理、アフターサービスに関するお問い合わせ

【日本遠隔制御株式会社 ラジコンサービス課】
お問い合せ　TEL:06(6732)0200
受付時間／9:00～13:00・14:00～17:30（土・日・祝日及び当社休日を除く）

日本遠隔制御株式会社
〒577-0809 東大阪市永和2-2-12
NEM-C54B（2011年6月）